

100年に一度か、10年に一度か

(2月のごあいさつ)



平成 21 年 2 月 1 日

名護の桜が満開です。沖縄本島の桜は北から南へ咲くのが不思議です。

平成 21 年 1 月 30 日 (金) 万国津梁館で開催されたアジア金融フォーラム in 沖縄を聴きに行った。

午前中のパネルディスカッションは“激変する金融システム下のアジア金融資本市場の発展と課題、そして日本の役割”であった。「世界は 100 年に一度でもアジアは 10 年に一度の危機」という最初のパネラーの発言に見られるように、アジアや日本を元気づけるような明るい、ユーモアもある聴いていて楽しいディスカッションであった。しかし、現状のマスコミ報道などに影響され過ぎているのか、今一つそうかな？という感じがした。

10 年に一度とは、アジアの或いは日本の金融機関のことにのみを指しているのか、金融機関の取引先である企業はやはり 100 年に一度ではないか。10 年に一度なら単なる景気循環に過ぎない。少なくともパネルディスカッションの前の佐藤金融庁長官の基調講演にあった 50 年に一度ではなからうか。

株価を見ても、震源地の欧米の株価以上に日本の株価は下落している。

中小企業の景況は冷え込んでおり、雇用情勢や数ヶ月先を悲観的に考えたり、ドルの不安定さを感じる毎日であり、やはり、10 年に一度どころではない。

日本の金融機関は、アジア危機などの経験を経て震源地の欧米よりも体質が強化され、10 年に一度程度のダメージだという説明もあった。金融機関の田んぼである企業のダメージはとてもそれどころではない。金融機関は取引先の企業群とは大きく体力差をつけていることになるのだろうか。

今回の金融危機に関して欧米と比較したアジアの優位性の強調なのか、シンポジウム全体について、その楽観性に何か引っ掛かる印象を持った。

それはそうとして、確かにマスコミ報道から受ける印象ほど、急激な経済不況が感ぜられないのは確かである。

今後ともよろしくお願い致します。